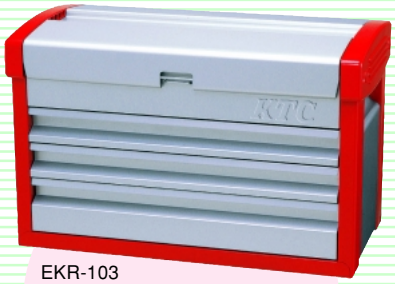
部品 用品 整備 最新動向 テクノレーダー 35

チェスト最新事情

機能美を追求した「次世代型工具箱」が登場！



EKR-103

エンジンのヘッドカバーを彷彿とさせる洗練されたデザインを採用した。

トップカバーはマグネットによる簡易施錠が可能な構造とし、掛け金を操作する煩わしさを解消した。

ハンドルの裏側は、手を掛けても痛くならない形状を採用した。

デザインと機能性を調和

京都機械工具㈱は、新型チェスト「EKR-103」の発売を開始した。EKR-103の開発コンセプトは、単に『工具を収納する箱』としての機能性を向上させるだけではなく『見て楽しい・触って楽しい・使って心地よい』といったユーザーの感性に刺激を与える点にも目を向けているのが大きな特徴だ。

EKR-103のデザインを見ると、トップカバーにエンジンのヘッドカバーを彷彿とさせるデザインが施され、他のチェストにはない存在感を示しているのが分かる。

ただ、デザイン優先で工具箱としての機能性が損なわれたら商品の魅力は半減する。EKR-103の場合、収納部の容積を30%アップさせ(同社従来クラス品との比較)、使用頻度の高いハンドツールが集中的に配置されるトップ部にディープソケットを立てて収納できる深さを確保した。

一方、引出し部もゆとりある奥行きを確保し、プライヤやラジオペンチ、ニッパなどを奥行方向へ並べて収納することができる。また引出しのレールを本体のフレームに接合しガタつきを抑える構造を採用し、開閉時の精度感も高めている。

その他では、トップカバーの開き角度が従来より約半分で引出しを開閉できたり、盗難防止のために南京錠を掛けるロック部をトップカバーのデザインに溶込ませた構造へ変更している。

チェストに新しい価値観

最近は『見せる(魅せる)整備』に対する意識が向上している風潮を背景に、機械工具全般で「デザイン」に対するニーズが強くなっている。

このようなトレンドにあれば、これからチェストに対してデザインと使い勝手を追求した商品を求める声が増えても不思議ではない。

同社はEKR-103を『次世代工具箱』と位置付けているが、その言葉の裏側にはこれから強まるであろうニーズに応えた自信が隠されているのかもしれない。